



大忙しのボランティアスタッフ

伊東市に数カ所ある認知症カフェの中でもひとときわ活動の活発な市南部の八幡野地区で、地域住民の居場所の一つ「ふるさとカフェ」の火曜日イベントを訪ねました。毎週、週替わりでさまざまなイベントを行い、ふだんは地域高齢者の居場所として活用されている場所。3年ほど前にスタートしたカフェだが、以前は、近くの別の場所を借りて運営されていました。昨年（令和元年）から、スタッフの代表者、萩原弘子さんの自宅離れを使っています。郵便局長だった萩原さんの「顔の広さ」もあって（さすが郵便局の顔と思わせるエピソードもたくさん）、毎回大勢のスタッフで運営されているカフェで、この日もスタッフ、参加者が大勢で賑わっていました。



キーボードの鈴木さん

この日の「出し物」は、「音楽イベント」。伊豆半島全域で長年高齢者施設などで歌唱指導を行っている鈴木さんの指導のもと、ナツメ口、童謡などを10曲以上歌う趣向。キーボード、ギター、そして打楽器など、たくさんの楽器をこなしながら、皆さんと歌う鈴木さんの指導で、マスク越しながらも、皆さん元気に歌われていました。



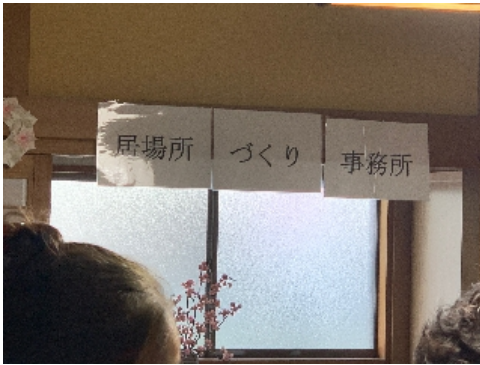
歌声講師 鈴木さん



セルフサービスのティーパーティ

ただでさえ高齢化率の高い伊東市の中でも、この南部地区は、とりわけ高齢化率の高い地区。令和2年4月1日現在では、伊東市の高齢化率が42.3%（日本の平均が28.6%）の中、この地区の高齢化率は、ほぼ50%に近い、文字通り「（高齢化率の高い）お年寄りの街」になっています。

とはいえ、一方で、別荘が多いこともあって、移住者の割合も年々増えています。かくいう私自身も、都会からの移住者の一人ですが、戦争前後の数十年前にこの地に「嫁入り」したご婦人たちとお話するのは、とても楽しいひとときです。「ああ、そうだったんですか！」と、昔の近隣風景を語ってくれる高齢者の方たちとの団欒のひとときが、この「居場所」の最も大事な効能なのではと思います。



居場所作り本部「ふるさとカフェ」

取材：東・南・西伊豆地区担当 生きがい特派員 満富 俊郎